



2019 年度 岩臨技定時総会のご案内

日時：2019/6/8（土曜日）

13：30～ 定時総会

15：00～ 研修会

場所：大通会館リリオ 3F イベントホール

盛岡市大通1丁目11-8



研修会報告

平成 30 年度認知症対応力向上講習会 B に参加して

岩手県立千厩病院 佐藤里美

2月9日(土)、10日(日)の2日間、岩手医科大学附属循環器医療センターにて開催された認知症対応力向上講習会 B に参加しました。ビデオ視聴による総論の他、実習は認定認知症領域検査技師である市立秋田総合病院の渡辺智美さんに実習講師として進行して頂きました。

改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)、ミニメンタルステート検査 (MMSE) は、認知症の代表的なスクリーニング検査であり、治療効果を見るものではないこと、学習効果があることなどの特徴が挙げられました。これらのカットオフ値の基準は薬物療法が出来る以前に作られたため、点数がカットオフ値以上であっても認知症の可能性があることもあり、注意が必要だと感じられました。総点数ではなく、どの項目で機能低下が見られるかの方が大事だとのことでした。MMSE において、アルツハイマー型認知症の場合、時間の見当識が一番に障害されやすいが、場所に関しては軽度の時点ではまだ理解できているそうです。当院でも HDS-R と MMSE を実施していますが、実際に時間の見当識が機能低下している患者さんが多く見受けられると感じています。

ADAS, TDAS 検査は、アルツハイマー型の治療評価法で、ADAS は所要時間が 40 分かかり、臨床心理士が実施することが多いそうです。評価の仕方も少し難しく、実習でも 1 時間ほどかけて何とかやれたかなという感じでした。特に口頭言語能力、言語の聴覚的理解、自発話における換語困難の評価は、自由会話をしながら患者の理解力等を評価するのが難しいと思いました。

平成 29 年 3 月より施行された 75 歳以上の自動車免許更新時に行う認知機能検査についても学びました。採点基準にやや曖昧な点があり、判定者によって差が出てしまうこと、アルツハイマー型認知症を対象とした検査のため、前頭側頭型認知症などの物忘れはそれ程ひどくはならない認知症を見落とすリスクがあるそうです。物忘れ診断プログラム等を使用した、標準化された検査に替わることが望まれます。

実際の業務にすぐ生かせそうな、充実した研修会となりました。お忙しい中、準備にあたられた講師、役員の皆様に感謝申し上げます。



「平成 30 年度 初級・職能開発講習会」に参加して

岩手県予防医学協会 川村稚尋

平成 31 年 3 月 3 日に岩手県立中央病院で行われた初級・職能開発講習会に参加いたしました。日本臨床検査技師会 宮島喜文会長より「医療情勢と今後の方向性」、同じく横地常広副会長より「多職種連携医療で活躍する臨床衛生検査技師」の講演をいただきました。内容は、少子高齢化に伴い、医療は介護施設の拡大、在宅医療へのシフト、AI の導入が予測される。将来、臨床検査技師の需要と供給体制は新たな検査診断・治療が期待され、技師は遺伝子診断の普及や先進医療の展開の為に能力開発をしていかなければならない。といったものでした。今後私たちは自己研磨と組織強化のために日臨技、技師連盟の活動に積極的に参加していき、会員の身分・地位の向上と国民の健康に貢献していくことが必要であると感じました。



また午後の部ではグループワークがあり、「多様ニーズに対する臨床検査技師のあり方」と題し、テーマ 1：スタッフの意識改革と組織強化の取り組み、テーマ 2：業務体系の変革（受動態から能動態へ）、テーマ 3：生涯教育の意義とあり方の 3 つのテーマを設け、それぞれのテーマについてグループごとに話し合い後、発表しました。私は D グループでテーマ 1 について話し合いました。まず意識改革としては、これまでの常識や習慣などにとらわれずに、新しい考え方や思考などを取り入れていくことだと考え、そのためにコミュニケーション能力を向上させることを考えました。主に、課内掲示板の活用や業務内容のローテーションを組み、その際各係で改善点があれば指摘し合いで伝達していくこと、そして課内を越えて課外の業務を理解しまた理解してもらうことを最終目的としました。そうすることで、組織強化につながるのではないかという結論に至りました。ほかのグループでもさまざまな意見が飛び交い、どのグループも病院・会社をよくする方法を一生懸命考え発表していてすばらしい内容でした。今回の研修会を通して、自分の仕事への姿勢への刺



激となり、自己研磨と研修会などへの積極的な参加、そして今回学んだことを職場へ持ち帰り伝達していこうと思いました。

最後となりますが、宮島会長、横地副会長をはじめ、研修会を企画運営してくださった岩手県技師会の皆様に深く感謝申し上げます。

平成 30 年度第 4 回理事会議事録

日時：平成 31 年 3 月 9 日（土曜日）

場所：岩手医科大学 木の花会館 3 階会議室

出席者：行森良一、菊池英岳、畠山秀樹、高橋一博、川村将史、宮本祥一、畠山裕司、
岡田進、阿部久子、千葉拓也、千田文枝、石川学、井上幸男、小野寺絵美、
相原淳路

はじめに（行森）

先月から技師会の活動が多く、宮島会長の国政報告会や初級・職能開発講習会等があり関係者の方々にはご協力頂き感謝している。宮島会長と話す機会があり、臨床検査技師や日臨技のこれからを考えている方だと感じた。これからも宮島会長には参議院議員として活躍して頂きたい。

I 報告事項（行森）

・平成 30 年度第 2 回北日本支部幹事会議事録について

1. 北日本支部医学検査学会（第 7 回）報告

決算で 15,760 円の赤字となったが日臨技から補填される予定である。

2. 平成 30 年度北日本支部学術活動、研修会報告

染色体・遺伝子検査部門研修会（2 月 9 日）の案内文書の周知が遅く問題があった。また初級・職能開発講習会（3 月 3 日）の案内文書に山寺支部長名が無かった。今後、北日本支部管轄の研修会・講習会等の文書を作る際は注意して頂きたい。微生物部門の決算の収入執行率が 178%、印刷代は報告概要には記載されているが、決算が 0 円になっている。他の部門も含めて学術部長が確認することとなった。

3. 平成 30 年度第 3 回支部長連絡会議報告

北日本支部関連の会議や研修会は支部長連絡会議に挙げるので開催県が定例報告用紙に記入後、提出してほしい。今回の初級・職能開発講習会については報告済みである。e ラーニングは病院単位で行えるように検討中である。宮城県で開催している検体採取指定講習会を今年は 8 月 24 日～25 日、12 月 14 日～15 日に開催される。今年が最終年となる。

4. 平成 30 年度全国学術部長会議報告

部門長、部門員の選任方法については、支部内のバランスが必要であり、適当な人材が選任されれば良いが、偏っているのが現状である。臨床生理部門の亜分類に呼吸生理追加の意見があったが時期尚早とされた。支部の再編について日臨技は考えていないので、支部研修会で必要があれば東北と北海道を別々に開催しても良いと思う。

5. 平成 31 年度北日本支部学術活動、研修会について（別紙）

5 月 18 日、19 日に下関市で第 68 回日本医学検査学会が行われる。平成 31 年度は岩手県では北日本支部の研修会は開催されない。

6. 北日本支部医学検査学会（第 7 回）学術奨励賞の選考について

受賞者 3 名挙げたが、若手企画も加えたいと学会長から説明があった。若手企画の名称で可能か支部長が日臨技に問い合わせをし、可能であれば 3 番目を若手企画にすることとなった。

7. 北日本支部医学検査学会（第 8 回）について

会期は 10 月 5 日～6 日、会場は山形テルサと霞城セントラル。学会長は山形市立病院済生館の居鶴一彦会長である。第 7 回で好評だった若手実行委員企画を第 8 回でも行いたい。一般演題登録は 4 月～6 月 21 日締め切り。事前参加登録は 8 月 31 日。座長は 7 月中旬に各県に依頼する予定。抄録は P D F で、プログラム集は 8 月末に完成し 9 月に配布する予定。リーフレットはこれから北日本支部道県に配布する。山形開催のマラソンと同時期なので宿泊予約が困難になる可能性があるが、学会である程度は確保してある。

8. 第 69 回日本医学検査学会（2020 年開催）について

宮城県での開催で、学会長は福島県臨床検査技師会会長の山寺幸雄会長、実行委員長は副臨技の柴田副会長が務める予定である。開催日は 4 月 24 日にスキルアップ研修会、4 月 25 日～26 日に第 69 回日本医学検査学会を開催する予定である。目標演題数は 600 題なので岩手からもご協力をお願いしたい。同年に北日本支部医学検査学会（第 9 回）もあるのでその点も考慮して対応していきたい。各施設への周知をお願いした。

9. その他

柴田福臨技副会長から福臨技の法人化 30 周年記念式典を 2020 年 6 月に開催を予定しており、各会長への出席依頼を行った。北日本支部医学検査学会（第 9 回）は 2020 年 10 月 17 日～18 日に会場はアイーナで開催すると報告した。早坂北海道幹事から東臨技から災害に対する寄付金を頂いたので有効に使用しますとの説明があった。

・ 日本臨床検査技師連盟等について

平成 31 年第 1 回日本臨床検査技師連盟執行委員会にて、自民党への入党推進についての話があった。入党目標は年間 2000 人となっている。自民党の公認候補予定者である小川しんじさんが 5 月 13 日（月）にアイーナで講演会を行う予定である。2019 年度の連盟の会員入会目標が 8000 口（2400 万円）となっている。連盟会員数は岩手県においては 11 名で目標は 76 名となっている。達成率は 14.5%と低調である。理事は前回の理事会で加入することになっている。加入者が増えるよう呼びかけを各施設で行うこととなった。

Ⅱ各事業について

1、総務部（菊池）

- ・12月14日、15日に技師会館で行われた災害派遣技師研修会に参加した。一日目は講義で内容はどのような団体が活動しているか、実際の活動内容や体験談等であった。2日目はグループワークで実際に災害が起きた状況を仮定して活動手順、行動内容をグループ内で討議した。実際に臨床検査技師が災害現場で活動することは少ないと思うが、イメージとしては被災した病院の検査室をいかに早く復旧させるかを視野に入れていくことが重要であると思われる。災害時の連絡体制等を構築していきたいと思う。日臨技にメールアドレスを登録していれば、一斉連絡は出来るので各施設、各個人共に日臨技のホームページから登録して頂きたい。
- ・会員名簿について
作製には労力がかかっている。次回作製する際には日臨技の名簿を利用することとなっているが、異動等があった時には各会員が必ず変更を行うようにしてもらいたい。総会、会報等で会員にお知らせすることとなった。

2、学術部（畠山秀樹）

- ・精度管理報告会を2月16日（土）に行った。初級・職能開発講習会を3月3日（日）に岩手県立中央病院で行った。40名程の参加があり成功裏に終わった。
- ・初級・職能開発講習会について（高橋）
本講習会の対象者は卒後3年から10年の若手技師。県立病院勤務者が多いことから県立病院臨床検査技師会と共同歩調とし、県立病院側では第113回目の実務研修会となった。初めての試みであったが医療局の理解もありスムーズに進み、大きな問題は発生しなかった。宮島会長は衆院での予算通過の影響で欠席となりビデオ講演となった。日臨技からは深澤専務理事が派遣され講演を行った。午後のグループワークでは川村常務理事が司会を行いスムーズに進んだ。いろいろな意見もあり参考になった。会場は岩手県立中央病院4階大ホール他、第2会議室、第3会議室を使用した為、施設費が掛からなかった。秋田の藤田会長、青森の齋藤会長も参加された。開催日は日曜日であったことで予約が取りやすかった。日曜日開催となったのは日臨技からの要請があった為であった。日臨技との連絡は畠山副会長が担当し、県立病院側は高橋常務理事が窓口となり、細川県立病院技師会長・福士事務局長とともに運営をした。役員同士の連携が良く、滞りなく企画・進行が行われた。日臨技から連絡があり、深澤専務理事の講師料や旅費は日臨技から出るので、後日返還されることとなった。

3、公益部（川村）

- ・今年度の事業等について
9月9日に大雨の中、安比高原スキー場で行われたあっぱりレーマラソンに参加した。総勢15名の会員で大腸がん予防啓発活動を行った。検査と健康展は二戸で実施した。開催日は11月25日（日）、場所は二戸ショッピングセンターニコアで行った。来場

者は102名であった。肺年齢測定機器が故障していて一部使用できなかったのも、開催前に機器の状態を必ず確認することとなった。来年度の検査と健康展の開催地区は本来であれば盛岡地区であるが、医大の移転等あるので南部地区で行うこととなった。他の健康祭りと重ならなければ何かのイベント等と同時開催するのも可能である。場所は今後検討していくこととなった。

4、生涯教育（宮本）

- ・平成30年度生涯教育対象行事について

平成30年度の生涯教育対象行事は54行事を登録した。前年が46行事なのでかなり多くなっている。内訳は専門が33回で去年と同じである。基礎が21回となり増えているが、内容を確認すると医療法等の一部改正があり、それに関連する講習会增加した為と思われる。生涯教育を5年間で200点、基礎が60点以上、専門で140点以上取ることを考えると、専門分野と基礎分野の開催のバランスは丁度いいと思われる。

- ・日臨技eラーニングについて

精度管理責任者の育成等について日臨技ではeラーニングを推している。eラーニングをアピールするビデオもあるようなので大きな研修会などのオープニングで流せばPRに繋がると思われる。

5. その他

- ・日本臨床検査薬協2018年度プロモーション地区会（東北ブロック）派遣報告（高橋）
2月18日、仙台市で行われた2018年度プロモーション地区会に参加した。基本的内容は公正取引に関わる話であった。臨床研究には共同研究、委受託研究がある。それぞれ規定があるが共同研究と委受託研究は契約書の締結、倫理審査が必要とされていて、学会発表が可能である。一方、採用前検討（臨床試用）は臨床研究に当たらない為、倫理審査、契約書は不要であるが、得られたデータでの学会発表は出来ない。学会発表に使用するには契約書を締結し、データは再度、測定しなくてはならない。学会等の会合の運営に関してだが、基本的には学会の運営は参加者（受益者）が負担するものであるのが前提である。寄付金募集に関しては会期の3か月前までに趣意書、収支予算書などを提出する必要がある。開催費用の過半は自己資金で賄うが、その中でも懇親会などの本人達が利益を受けるものについては開催費用の中には含めてはいけない。開催終了後、6ヶ月以内に決算報告書、事業報告書を提出。労務提供は1社1日あたり1～2名を目安とするが企業によって人員を提供できる数が異なってくるので、多く人員を出したからといって貢献度が高いと判断するとプロモーションに引っ掛かってしまう。抄録作製時に広告料をお願いしているが、抄録作製の実費に充当し学会運営費とはしない。開催は今年もう一回、仙台で行われる予定である。
- ・岩臨技精度管理調査について（千葉）
岩臨技の精度管理調査の報告書等は今までCD-Rで郵送していたが、経費削減や作業の簡素化の為、今後は郵送を減らし、日臨技ホームページからダウンロードするか又

(い わ て)

はメール添付にしたい。今年度、郵送したのは最初と最後の2回のみで請求書、参加証明書等は日臨技のシステムからダウンロードする形にした。来年以降は報告書もダウンロードする形式にしたい。

- ・日臨技精度管理調査サポート助成について（千葉）

『日臨技精度管理サポート事業（都道府県技師会開催）助成金』は日臨技の精度管理調査においてC・D評価を受けた施設を対象に結果検討会等の精度管理に関する内容の研修会実施を条件としている。参加人数によるが最大70,000円の助成金が出る。来年度から開催できるよう準備していくこととなった。

- ・平成31年度の定期総会等について（畠山裕司）

6月8日（土）に開催する。議長は三陸地区から選出する。30年度の事業報告、31年度の事業計画案を3月23日（金）までをお願いしたい。各地区の収支決算は3月22日（木）までにサイボウズに上げてほしい。領収書は原本を事務局に郵送。残金は振込手数料を差し引いた金額を岩臨技の口座に3月31日までに振り込んでほしい。監査の都合上、期限厳守をお願いしたい。次回、理事会は6月8日の午前中を予定している。研修会も今後決定しなくてはならない。研修会の後に第1回理事会を行う。新しい理事の氏名、所属、メールアドレスを5月20日頃までに報告してほしい。地区の学術部門員についても合わせてお願いする。

- ・第24回岩手県医学検査学会の開催日等について（千田）

11月頃開催し、会場を早目に押さえることとなった。

- ・日本臨床検査技師連盟の加入について

前回の理事会で理事は最低限加入することとなったが、来年度の理事にもお願いすることとなった。臨床検査の発展並びに臨床検査技師制度の向上の為に加入して頂きたい。国会議員等に対する渉外活動は必要であり臨床検査技師の地位向上の為に連盟に加入して頂きたい。

Ⅲ協議事項等

- ・第3号議案 会費値上げについて（案）について

会費の値上げについて総会の議案書に載せる文章を作成した。（別紙）会費値上げの理由について、1.法人化の為に基盤強化、2.事業運営に対する課税対応、3.研修会開催数の増加に対する費用増加、4.ホームページ管理委託の為に費用、5.役員間情報ツールの為に費用とあるが、それぞれ協議する必要があると思われる。事業運営に対する課税対応は研修会などでは講師料の謝礼金は課税対象となっているので、研修会が多くなってくると税金分が多くなってくる。運営は例年赤字会計であり、今後控えている学会の開催の準備金等が不足するのが予測されているので会費を上げざる負えない状況も謳った方がいいと思われる。学会が終わっても研修会の増加に伴う経費の

増加に対応でき、また、余剰金でホームページ管理委託等の準備も進めたい。会費値上げの理由は総会などで、会員に説明することとなった。

- ・サイボウズの利用停止について

4 月 15 日にサイボウズ Live が終了する。前回は協議したがサイボウズに代わる無料グループウェアにはサイボウズと同様の機能があるが、セキュリティー等に問題がある。メール機能、ファイル共有機能は必須である。サイボウズ Office を月 1 人 500 円で 33 名利用するとして年間 198,000 円経費が増加する。協議の結果、契約内容、料金等を確認し来年度はサイボウズ Office を利用することとなった。

- ・ホームページの作成について

ホームページを一度に作り上げるには初期経費（100 万円程度）がかかるので段階的に進める。2020 年岩手開催の北日本支部医学検査学会（第 9 回）のホームページも作成しなくてはならない。岩臨技のホームページ作成も何年後に完成させるのか、いつリニューアルするのか、予算的なことも含めて細かなことも決めなければならないので、一度、コンピューター・コンサルティング会社のぴーぷるとサイボウズの件も含めて、複数人で相談することとなった。

- ・各地区より本年度の活動について

〈北部地区：岡田〉今年度は 3 回の研修会を行ったが参加者が少なかった。11 月に検査と健康展を二戸で行い 100 名を超える参加者があり成功裏に終わった。

〈中部地区：千田〉第 3 回研修会を 1 月 26 日に県立胆沢病院で行った。来年度の学会は中部地区が担当なので次期会長・役員に引き継ぎたい。研修会の案内が岩臨技と中部地区から 2 重で案内が来ることがあるが、無駄ではないかと話が出ている。中部地区では参加者の増加の為、地区の研修会は各施設に郵送している。研修会の案内はホームページに掲載してあるのでそちらも有効に活用してほしい。

〈南部地区：小野寺〉今年度は 2 回の研修会を行った。11 月 18 日に第 23 回岩手県医学検査学会を開催した。

〈三陸地区：石川〉今年度は 2 回の研修会を行った。3 月 14 日に次年度の三陸地区の役員体制を決める理事会を行う予定である。



研修会のご案内

【盛岡地区技師会定期総会及び第 69 回盛岡地区研修会】

日時：2019 年 5 月 9 日（木）18：30～20：10（受付開始 18：00～）

会場：盛岡市立病院 2 階 大会議室

内容：1. 2019 年度盛岡地区技師会定期総会

2. 第 69 回盛岡地区研修会

「日当直に役立つ血液ガスデータの見方（仮）」

生涯教育：基礎教科 20 点

参加費：無料

【第 9 回日本検査血液学会東北支部 総会及び学術集会】

テーマ：「鍛えよう！検査血液学の柔軟な見方と探求心」

日時：2019 年 6 月 1 日（土）11：30～17：50

会場：岩手医科大学創立 60 周年記念館

参加費：1000 円（平成 31 年度年会費として）

【日臨技北日本支部 第 6 回病理細胞診部門研修会】

テーマ：「伝わる病理細胞技術～未来に繋がる匠技～」

日時：2019 年 6 月 29 日（土）13：00～6 月 30 日（日）11：55

会場：札幌医科大学 臨床教育研究棟 1 階 札幌医科大学講堂

定員：110 名

申し込み期限：2019 年 5 月 20 日（月）

受講料：会員・賛助会員 6,000 円 多職種 8,000 円

総務部からのお願い

年度末になり、人事異動などで勤務先や住所が変更になる方もいると思います。

異動になられた方は、すみやかに各自で日臨技のホームページからログインして変更事項の訂正をお願いします

変更の訂正漏れがありますと、日臨技からの郵便物やお知らせが本人宛に届きませんので、直ちに変更事項の修正の手続きを行ってください。

なお、後々の会員名簿作成にも影響しますので修正漏れのないようよろしくお願いします。



今回の『つなぐ』は県立釜石病院の佐藤美咲さんです

“つなぐ”

今回、県立磐井病院の千葉優希さんから引き継ぎました県立釜石病院の佐藤美咲です。千葉さんとは同期で、社会人になってからの付き合いですが、いつも仲良くしてもらっています。前回のつなぐは浅草観光についてでしたが、人力車は乗ったことがないので浅草に行く機会があったら私も乗ってみたいです。

私の「つなぐ」のテーマですが、大学時代のことについてお話ししたいと思います。私は弘前大学出身で、医学部のキャンパスから4kmほど離れた学生寮に4年間住んでいました。雪がない時期は自転車をとばして20分、冬はバスと徒歩で30分くらいかけて通っていました。築50年以上は経ったかなり年季の入った建物で、お風呂、トイレ、炊事場は共同、8畳くら



いの広さに2人部屋、各部屋の両脇には備え付けのベッドと勉強机、身動きできるのは中央に残された1畳ほどのスペース、プライバシーが守られているのはカーテンに遮られたベッドの上のみ、壁は薄いベニヤ板で隣人が爪を切る音さえ聞こえる…などなどまだ書き足りないですがだいたいこのような環境で大学4年間を過ごしていました。当時から思っていましたがよくこんなところに4年間も住んだものですが、住めば都というもので、よい同期に恵まれたこともあり、楽しい寮生活を送ることができました。寮での思い出はたくさんありますが、その中で一番思い出に残っているのはバーコン(バースデーコンパ、お誕生日会のことです。大学生の文化なのか寮の伝統なのかはわかりませんが、懇親会的な催しはだいたいコンパと言っていました)です。私の同期は9人いるのですが、誕生日に近い3人ずつまとめて祝って、年3回、1年から4年まで毎年開催していました。毎回祝う側の6人でケーキを焼いて、プレゼントも手作りしていました。プレゼントは、ミルクパズルに絵やメッセージを書いて誕生日の子に組み立ててもらったり、色紙にみんなで寄せ書きしたり、百円均一で買える材料で、なるべくお金をかけずに作っていました。みんなで



ケーキやプレゼントを作ったりした時間はとても楽しかったことを覚えています。写真は寮の外観と、バーコンの時にみんなで作ったケーキです。

次は、同期の県立中央病院の宍戸美里さんにつなぎたいと思います。宍戸さんは大学の同期でもあり、寮と一緒に4年間住んだ同期でもあり、何かと縁がある友人です。今回はお忙しい中引き受けていただきありがとうございました。よろしくお願いします！

登山同好会便り

12月22日、2018年登り納めとして陸前高田の氷上山に行ってきました。臨床検査技師、医師、看護師、放射線技師、MSWの老若男女5職種10人で、けがをした場合でもいつでも対応できるメンバーで安心して登ることができました。この時期としては雪が少なく、登山者もほとんど居らず、熊やカモシカに遭遇することもなく、心地よい寒さと適度な運動でリフレッシュすることができました。モグモグタイムとゴクゴクタイムを織り交ぜながらメンバー全員はリタイヤする事もなく、余裕で予定通り登頂することができました。下山後は、ひなびた玉乃湯温泉で電気とゆず湯で疲れを癒すこともできました。沿岸の山々は雪が少なく年中通して登れます。次回も予定していますので、興味のある方は是非一緒に行きませんか。初心者大歓迎です。(胆沢 菊池英岳)



★☆☆編集後記☆☆★

気がつけば、今回の会報は平成最後の号となります。次回は令和最初ということで、節目の年に会報を担当させていただいて、とてもうれしく思います。4月・5月は新年度や新年号と新しく始まることが沢山ありますね。私も、新たに何か挑戦していきたいと考えています。(小)

会報「いわて」第324号 2019.04

一般社団法人岩手県臨床衛生検査技師会

発行人：

会 長：行森良一

事 務 局：畠山 裕司

編集責任者：相原淳路

小野寺絵美

〒020-8505 盛岡市内丸19-1 岩手医大中検内

Tel.(019)651-5111 内線3746 Fax.(019)654-8510

<http://www.iwateamt.or.jp/>

会報専用メールアドレス：

kaiho@iwateamt.or.jp